

いのちの輝き

2019
October

53号



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院



こども病院・拓桃統合の 象徴：合同夏祭り

理事長・院長 今泉 益栄

今年(令和元年)8月のこども病院夏祭りは本館・拓桃館の合同開催で盛大に行われました。この合同開催は昨年夏からですが、平成28年(2016年)3月統合後の2年間は別々に開催されていました。3年目で実現できた合同夏祭りは、こども病院の本館と拓桃館が有機的なつながりを作りつつあることの象徴です。このつながりは、本館と拓桃館の病棟間を行き来する患者が増加しつつあることに見て取ることが出来ます。

10年程前から入院の感染症患者の減少が続いていましたが、統合後から基礎疾患を有する感染症患者が本館に入院し、減少傾向の感染症患者が増加に転じました。また、神経科患者のPICU入院患者が統合後に増加し始めたことは、神経疾患患者が急性疾患を併発し集中治療を必要とすることが増えた表れです。

一方で、本館で急性期治療を行った後に拓桃館に転棟して在宅医療に移行する患者も徐々に増えています。具体例としては、急性脳症や低酸素性脳症の集中治療後、二分脊椎症やもやもや病の手術後、心筋症などのリハビリ後の患者などです。拓桃館に転棟してリハビリテーションスタッフや保育士などの支援を受けて在宅移行される患者・家族が増加しつつあります。

難病のこども達が集中治療や手術を受けた後に病状が落ち着くには専門医療が必要であり、同時にその後、患者・家族が病気を受け入れ、在宅医療に移行できるようになるにはリハビリテーションや生活支援トレーニングが必要です。さらに、一度在宅にでた患者も短期入所や増悪時に対応できる医療体制が必要です。統合後3年を経て、こども病院の本館と拓桃館の役割が相補的に動きつつあることをようやく病院職員が実感し始めています。



病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

病院の基本方針

1. チーム医療、成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
部門紹介	2
拓桃園紹介	3
地域医療連携室だより	4
迎え搬送	5
ボランティア紹介	6
行事	6
編集後記	6



当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。

各診療科 アピール ポイント



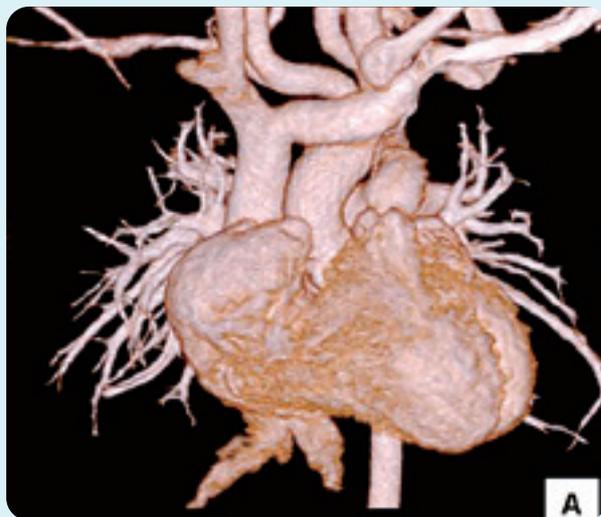
放射線科

放射線科科長 島貫 義久

放射線科は主に画像検査および画像診断分野を担当しています。具体的にはCT・MRI・核医学などの画像検査計画の立案と指示、放射線部での超音波検査の実施、画像診断報告書の作成、臨床各科との画像カンファレンス、主治医からの画像診断に関するコンサルテーションへの対応などです。

放射線科では、(1)こども一人ひとりに対して適切な画像検査を選択する (2)こどもに優しく身体的負担・精神的負担の少ない検査を安全に行う (3)得られた検査結果から診断・治療に役立つ情報を可能な限り多く引き出す、の3項目を基本方針とし、主治医と緊密に連携しながら診療を行っています。

なお、当院では放射線治療装置も装備しており、放射線治療専門医(非常勤)の応援を得て放射線治療を行っています。



図_心臓CT(volume_rendering像)

部門紹介



総務課

総務課主任 鈴木 敏也

総務課の業務内容は幅広く、日々さまざまな形で職員や行政機関など外部の方々と関わっています。その内容は、人事給与や福利厚生・健康管理のほか、病院内外との連絡調整や報道対応、建物・設備の管理・営繕、救急搬送や防犯・防災などが主なところですが、そのほか病院を取り巻く環境やニーズは日々変化していることから、新たな法制度やニーズへの対応、働きやすい環境整備など常に新しい取り組みも求められているところです。昨年度は院内保育所の開設や院外重症患者に対する当院救急車を活用した「迎え搬送」への取り組みを行ってまいりました。今年度は働き方改革への対応や職員研修の充実などを行う予定です。

総務課は直接的に患者さんへ関わることはあまりありませんが、他の職員や院内業務、そして病院の設備や環境を通じて患者さんや地域の皆様へ寄り添うことを心がけて日々業務に取り組んでおります。皆様に今以上に愛される病院を職員一同作っていかうと考えております。



課員 集合写真



『療育』について

看護部 教育担当看護師長 村上 則子

宮城県立こども病院は、平成28年3月に宮城県拓桃医療療育センターと統合し、小児の急性～慢性期の医療・療育、リハビリテーション～在宅医療を担う医療・福祉施設として成長し続けています。病院組織が大きくなり働くスタッフも増え、少しずつ一つの施設としてまとまってきている今、この病院を訪れるこども達のいのちの輝きのために、私はもう一度「療育」を考えるチャンスをいただきました。

療育の考え方の原点は昭和17年に高木憲次先生が説かれた「療育の理念」であり、今も拓桃園に引き継がれている理念です。それは、不自由な肢体をできるだけ克服する回復能力と残存能力、代償能力の三つの能力の総和である復活能力をできるだけ有効に活用し、自活できるよう育成することでした。現代では、「療育とは、発達障害など様々な障害を持つお子さんに、その特性による生きにくさを改善し、社会自立や、より制約の少ない生活ができるよう、医療や専門的な教育機関と連携して、必要なトレーニングを施して行くことをいう」と言われています。療育の対象が肢体不自由から発達障害まで広がりを持って捉えるようになったと言えると思います。

実際、現在の『療育』がどのように行われているのかをご紹介します。

療育支援室として、こども病院と宮城県拓桃医療療育センターの統合当初から発足しスタートしている、整形外科医師、神経科医師、児童発達支援管理責任者、リハビリテーションスタッフ、保育士、医療ソーシャルワーカー、看護部教育担当、支援学校教諭をメンバーとする組織が、患者さん一人ひとりの目標達成に向けて、チーム連携を図って支援方法を検討しています。また、療育支援委員会、リハビリテーション会議、入所支援会議、生活指導委員会など、療育のための各種会議も企画運営を行っています。

宮城県拓桃医療療育センターのころより、地域の福祉サービスも充実してきており、以前よりも入所している期間が短くなってきている傾向があります。障害のある児童に対して医療・生活指導・教育を複合的に行う拓桃園の療育サービスには、入所前の生活と退所後の生活に一貫性が必要になってきており、児童が地域でどのように生活して社会の一員になっていくのかを支えられるように日々職員が協力し合っています。

これからは、こども病院が療育の拠点として地域に療育の理念を伝えていく必要があります。社会に存在する障害(建物等のハード面や人員基準等のソフト面、偏見や差別等)を取り除いていくこともこれからの役割ではないかと思っています。





地域医療連携室だより

第11回「七夕の集い」を開催しました

(副院長・地域医療連携室室長 虻川 大樹)

「七夕の集い」は、2009年の第1回から数えて、今年で11年目となりました。今年は7月3日(水)19時から江陽グランドホテルで開催し、登録医療機関の先生方や訪問看護ステーション等多職種の皆様方84人にご来場いただき、総勢184人による盛会となりました。

第1部・講演会では、消化器科角田部長より「小児の消化管内視鏡(小腸内視鏡を中心に)」、脳神経外科君和田部長より「脊髄髄膜瘤の治療と予防」、リウマチ・感染症科桜井医長(感染管理室副室長)より「宮城県立こども病院における抗菌薬適正使用の取り組みと成果」のミニ講演を行い、フロアとの質疑応答もあってたいへん有意義な講演会となりました。最後に虻川より「地域医療連携室よりお知らせ」として、当院の地域医療連携の現状報告と当院への紹介方法を説明させていただきました。

第2部・交流会では、ご来場の皆様と当院職員が交流を深め、当院の地域医療連携のあり方について貴重なご意見、ご助言を頂戴することができ、たいへん盛り多き会となりました。恒例となった当院軽音楽部による生演奏で、ご来場の皆様も一緒に大いに盛り上がりました。

ご多忙中にもかかわらずご参集いただきました皆様に改めて御礼申し上げますとともに、来年もまた「七夕の集い」でお目にかかれることを心から願っております。



今泉益栄 理事長・院長によるご挨拶



消化器科 角田文彦 部長



脳神経外科 君和田友美 部長



リウマチ・感染症科 桜井博毅 医長

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目3番17号 受付時間/月曜日～金曜日(祝日、年末年始は除く)8:30～17:00
TEL : 022-391-5115(直通) FAX : 022-391-5120(直通) E-mail : tiiki@miyagi-children.or.jp

迎え搬送



「集中治療科」 ドクターカーによる重症患者の迎え搬送

集中治療科科長 小泉 沢

当院集中治療室PICU (Pediatric Intensive Care Unit)では、小児の高次救命医療・集中治療が可能です。集中治療科はPICUに常駐し、内因性疾患・外因性疾患・周術期と、重症化した原因は問わず入室患者の診療にあたります。

昨年度より、平日日中の医療機関からの重症患者転院依頼に対し、迎え搬送が可能となりました。重症患者の搬送医療にはリスクが伴います。迎え搬送は、搬送チームが紹介元病院に出向き、搬送前から集中治療を開始し、搬送中も安全な搬送医療と集中治療を提供することを目的としています。搬送チームは、集中治療科医師とPICU看護師、運転を担う事務職員から構成され、当院ドクターカーに人工呼吸器などの搬送資機材を常備し出発に備えています。

重症患者についてのご相談や、転院・搬送依頼については、集中治療科にご連絡ください。院内専門診療科と協力して診療にあたらせていただきます。



ドクターカー



集中治療室内



ドクターカー車内

ボランティア 紹介



移動図書室「ぽっかぽか」

こども図書館 村上 久美子

入院していることって、意外に忙しく慌ただしいと思うことがあるのではないのでしょうか。決まった時間に診察や検査、食事、服薬があるし、病棟は夜通し看護師さんがいてどこかで電気がついたり、足音が聞こえたりする。お子さんの治療が最優先ですが、ほっと一息つきたいこともあるかもしれません。

移動図書室「ぽっかぽか」は入院病棟に週3回午後3時から4時の時間帯に絵本や紙芝居を持っておじゃましています。曜日により幼児や大きいお子さんの病棟に行きます。オルゴールをかけて絵本を載せたカートを引きいていくと、後をついてくるお子さん、お父さんの手を引っ張ってくるお子さん。赤ちゃんを抱っこしてきてくれるお母さんもいます。絵本は子どもたちの日常生活の中にあるものです。家で読んだ本でも初めて読む本でも、病院での生活を忘れてくれれば良いなあと思います。短い時間ですが心を込めて読み聞かせをしています。



移動図書室「ぽっかぽか」担当の皆さん

左から、村上久美子、高橋智恵子、佐藤寿一、奈須野貴恵子、大堀英子

行事

10月31日(木) ハロウィン

11月12日(火) こども病院芸術祭前夜祭
(たくとう広場)

11月13日(水)～15日(金)

こども病院芸術祭
(愛子ホール)

12月20日(金) クリスマス会(本館)

12月24日(火) クリスマス会(拓桃館)

※芸術祭期間中、毎日、まほうの広場コンサート
(まほうの広場フェス)が開催されます。

編集後記

年号が令和に変わって約半年になりました。年号が変わっただけで何か急に変わるわけではありませんが、それでも世の中は確実に、現在進行形で変化しています。

昭和から平成に変わった頃、パソコンや携帯電話を使う人はごく一部の特別な人たちでした。しかし平成の30年を経た現在、これらは広く普及し、ほぼ必需品といってもよい存在になっています。今後もいわゆる人工知能(AI)はどんどん進化し、今はまだ珍しい無人レジや車の自動運転といったものもやがて普通になっていくでしょう。ただそういった時代になったとしても、AIにはできない、人間にしかできないことはあるはずであり、医療もその1つではないかと思えます。世の中の変化と共に病院に求められるものも変化していくと思いますが、当院においてもこうした変化に対応できるよう、各部署で様々な工夫を行っています。こういった取り組みがこの広報紙を通じて、少しでも多くの方に知っていただけたら幸いです。

臨床病理科 武山 淳二

地方独立行政法人 宮城県立こども病院

〒989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17

TEL : 022-391-5111

FAX : 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長 田中 高志

広報委員 武山 淳二 蛇川 大樹 佐藤 亮 小畑 正子 原山千穂子

村上 則子 高橋 美紗 町井 祐輔 本田 天斗 秋山 佳子

横山麻依子 工藤 久江 大塚 有希 外山 理江 真嶋 智彦

猪狩 菜緒 鈴木 敏也 遠藤 幸春 岩崎かおり 藤本 尚子



環境に優しい
ベジタブルインキと
再生紙を使用しています。



古紙配合率100%再生紙を
使用しています。